

高設栽培に適したイチゴ有望品種の特性

現在、イチゴは非常に多くの品種が乱立しており、生産者はその選択に頭を悩ませている。そこで、品種導入の参考とするため、国内主要品種及び新たに市場に出始めた品種を収集し、県内のイチゴ栽培面積の約15%を占め、さらに増加傾向にある兵庫方式高設栽培において比較して、その特性を明らかにした。

内容

当センター開発の兵庫方式高設栽培装置を利用し、同一条件下で栽培を行い開花期、収量等を比較した。定植は2010年9月13日、株間20cm、条間18cmの2条植えとした。マルチは10月13日に敷設、加温は8℃設定、電照は1時間当たり15分の終夜間欠点灯(11月16日～1月31日)とした。

頂花房の開花は、「かおり野」が最も早く、次いで「^{あきひめ}章姫」、「さがほのか」の順であった。「さがほのか」や「かおり野」は開花のそろいが良く、開花の連続性も高かった(図1)。

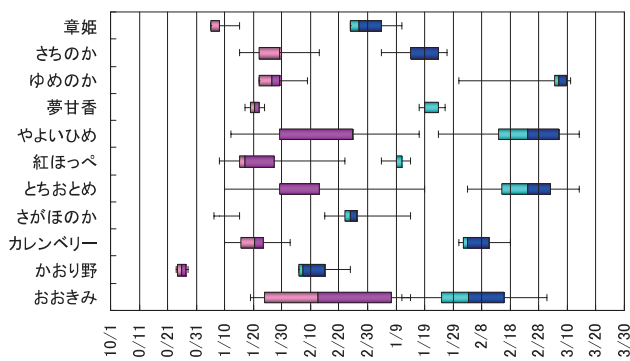


図1 供試品種の開花期の比較

図の見方：細棒の左端…最初の株の初開花日
色つき棒の左端…25%開花日、色の変わり目…50%開花日
色つき棒の右端…75%開花日、細棒の右端…最後の株の初開花日
赤色系…頂花房、青色系…第1腋花房

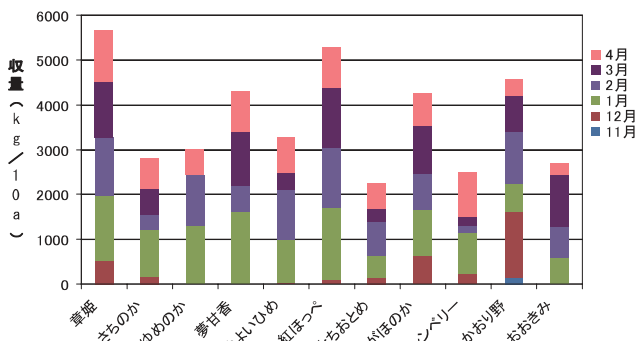


図2 供試品種の時期別収量

4月15日までの収量は「章姫」、「紅ほっぺ」、「かおり野」の順に多かった。「章姫」、「紅ほっぺ」は栽培期間中常に収量が多く、「かおり野」は12月までの年内収量が他品種より圧倒的に多かった(図2)。

平均果重を見ると、「おおきみ」「やよいひめ」が比較的大粒で安定していた。「かおり野」は、平均して大粒が収穫できる場合と小粒になる場合があり、時期によって差が大きかった(図3)。

普及上の注意事項

「章姫」同様の栽培条件下において、「おおきみ」「やよいひめ」では開花のばらつきがみられたため、育苗期での十分な株の充実と、株元冷却等の開花促進処理を行うことが有効と思われる。また、「かおり野」は果梗(果実が付いている軸)が50cm程度まで長くなるため、高設栽培では果梗折れ対策が必要である。「おおきみ」は、果実が大きく見栄えはするが、果皮色が淡いので日当たりを良くし着色を図る。

山本 晃一(農産園芸部)

(問い合わせ先 電話：0790-47-2423)

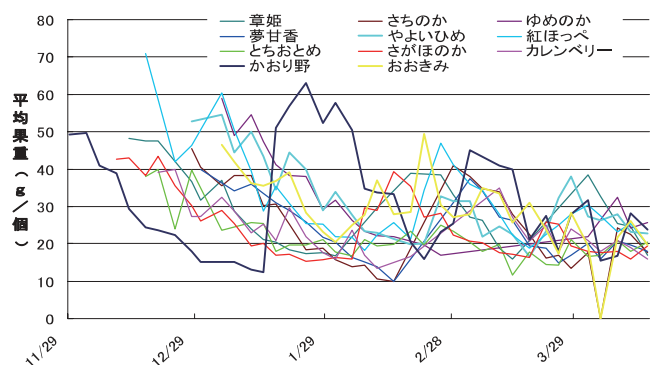


図3 供試品種の平均果重の推移